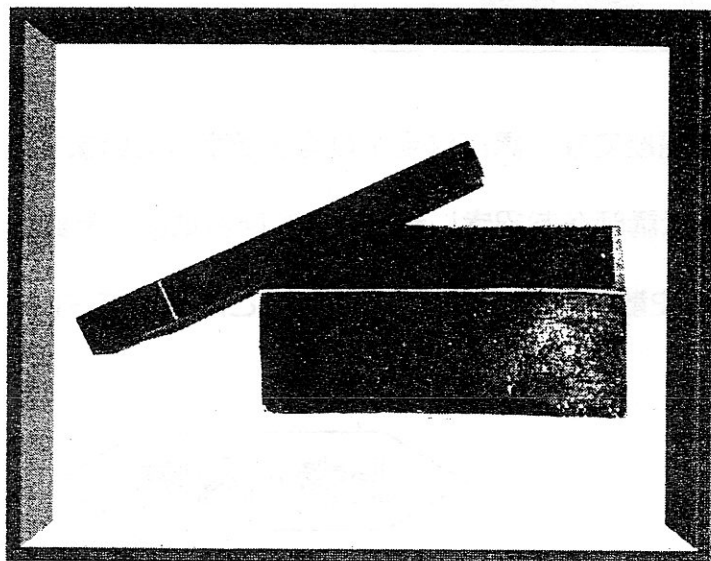
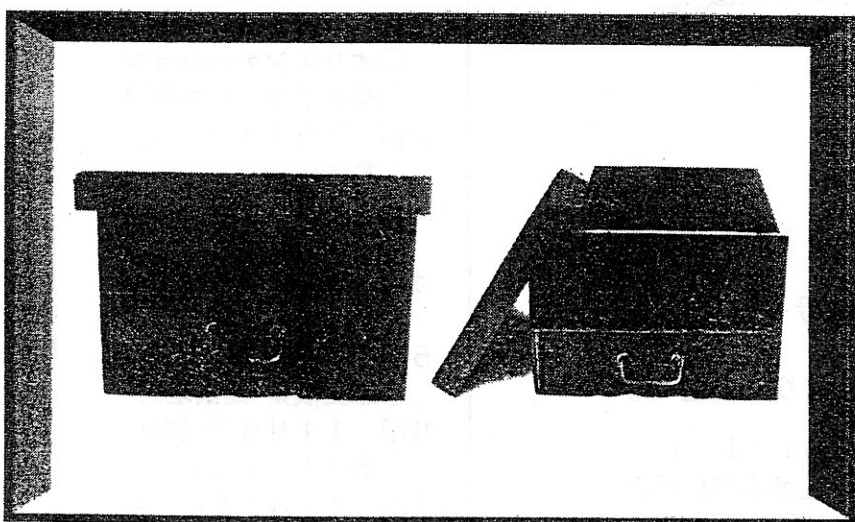


道具は語る 摂津市の昔の暮らし

ちょっと



食事の後は自分で洗い、自分でしまうのが基本でした。
茶碗は、お茶であらうこともありました。



郷土摂津
いにしえ通信

第25号

平成十二年五月一日
発行
摂津市教育委員会
生涯学習部生涯学習課

写真の箱膳はひきだしがつき比較的高級な部類にはいります。

第2回 食 箱膳

和室での披露宴や、日本旅館で出てくるお膳を角膳といいます。箱膳とは、個人用の日用食器類一式がおさめられており、蓋をかえして台にする単純な箱でした。

近世の農家では特に膳というものは使われていませんでした。箱膳がめいめいに与えられるのは町家のことで、高盛り飯を中心におかずの入った小皿が並びます。ご飯のお代わりを一膳、二膳とかぞえ、箱になっているので箱膳とよぶようになりました。

箱膳が一般的に普及するのは幕末から明治時代で、昭和三十年頃まで続きました。個人中心の配膳だから、家族の座る席は決まっており、親が子供に対して作法を教え、世わたりを説く厳粛な社会教育の場といった風でもありました。

ふるさと摂津講座

受講生募集！

摂津市の史跡から、摂津市の歴史を学ぶ講座です。講座は全10回を予定しています。

摂津市にゆかりのあるテーマを選択し多彩な講師をお招きします。また味舌地区・烏飼地

区の歴史散策も行います。ふるってご応募ください。

受講料無料

時 間 午後2時から4時まで

会 場 摂津市役所西別館第6会議室

対 象 歴史に関心のある方

定 員 40名

申し込み 官製はがきに、氏名・住所・郵便

番号・年齢・電話番号を記入の上、

下記あて先までお送りください。

〒566-8555 摂津市三島1-1-1

摂津市教育委員会生涯学習課 生涯学習推進係

(5月26日必着)

問い合わせ 摂津市教育委員会

生涯学習課 生涯学習推進係

TEL (06) 6383-1111

(0726) 38-0007

主 催 摂津市教育委員会

とき・内容

- 1回 6月8日(木)
○オリエンテーション
○郷玩界から見た摂津
- 2回 7月13日(木)
○亀岡街道
- 3回 8月10日(木)
○古代の摂津
- 4回 9月14日(木)
○摂津市の行事
- 5回 10月12日(木)
○歴史散策・烏飼地区
- 6回 11月9日(木)
○摂津市の学校史
- 7回 12月14日(木)
○三宅城
- 8回 1月11日(木)
○猿楽と摂津
- 9回 2月8日(木)
○文学から見た摂津
- 10回 3月8日(木)
○歴史散策・味舌地区

皆様のご応募お待ちしております。

郷土振津いにしえ

鳥養の歴史

浄土真宗蓮如と鳥養

平安時代末期、世の乱れの中、新しい鎌倉幕府が樹立されました。このような世相の中、新しい救いの道を求める声とともに興ったのが鎌倉新仏教です。その中でも親鸞による浄土真宗は振津市とも関係が深く顕著な動きを示します。

本願寺八世蓮如は、寛正六年（一四六五年）京都東山の本願寺が叡山衆徒によって破却されたので、その後しばらく大津南別院にとどまりましたが、文明三年（一四七一年）には越前国吉崎に坊舎を構えて、独自の教化活動を展開しました。しかし、七年八月には吉崎を退去し、海路で若狭の小浜に上陸し、応仁以来の大乱でなお騒然としていた京をさけて、丹波路を通って振津国に入りました。

川辺郡の広寝（川西市）錫をとどめた蓮如は、名塩（西宮市）にあった中山道場の門徒の求めでその地におもむき教化しています。

中山道場は後に教行寺となり、やがて名塩は寺内町を形成するほどにさかんとなりました。そして、再び広根を通り、富田（高槻市）を経て、両島山氏の動乱の続く河内国に入り、出口（枚方市）草坊を建てました。これが後の光善寺です。同十年に山科の本願寺に移居するまでの三千年の間、この出口を根拠地として振津・河内・和泉・大和・紀伊の教化を進めました。この時期の主な寺としては

出口の光善寺

名塩の教行寺

振津富田の教行寺

三番（東淀川区）の定専坊

枚方（枚方市）の順興寺

久宝寺（八尾市）の西澄寺

萱振（八尾市）の恵光寺

八尾（八尾市）の慈願寺

雁多尾畑（柏原市）の光徳寺などがありました。

振津市域における蓮如の教線の伸張は、明確にすることはできませんが、市内の真宗寺院の寺伝でその開創を蓮如のときとするものが四力寺あります。

善勝寺（鳥飼下）・西方寺（鳥飼八町）・願正寺（鳥飼西）・誓覚寺（鳥飼上）があります。

善勝寺は空善が（元恵現）が蓮如に帰依して文明九年に転宗しました。文明中に始まると伝えられています。西方寺には蓮如が下付した六字名号があり、出口の光善寺とのつながりがのちのちまであったことなども、このころの蓮如の布教をしのばせるものでした。

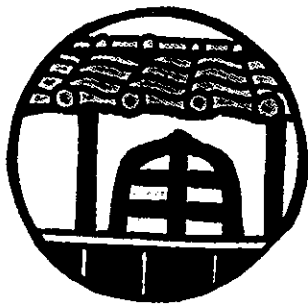
蓮如は山科に移居してからもしばしば振津河内山に向かっています。延徳二年（一四九〇年）には願正寺友尊、明応三年（一四九四年）には誓覚寺鋭吟と著実に門徒を獲得していききました。

鳥飼地域は京への交通路としての淀川の流域にあり、重要な位置を占めていたものと思われまます。

真宗の寺々の多くは、名号あるいは絵像の阿弥陀如来を本尊として、民家で法義の寄合を開くという寺号のない道場の形態から出発するのが普通でした。また、当初から寺の形態として出発する場合は他宗から転宗したものが多くあります。本願寺教団の振津進出にもさまざまな形態をとったと考えられますが、振津市域での蓮如の教線伸長の上で注目しなければならぬのが善勝寺と空善です。

善勝寺の前身は天照庵といい、天台・真言兼宗の寺庵であり、二十二代が恵現でした。恵現は蓮如に出会い帰依し、空善と改めました。その後、蓮如に仕え、晩年には特に親しく側にいたようでした。善勝寺に伝来する多くの法物を見ると、蓮如と空善の交流をしのぶことができます。

文献に善勝寺空善、法専坊空善、法光寺空善、の名がでており、同一人物であるか否かは判断できませんが、その可能性が考えられないわけではありません。たとえ、異人物であったとしても、善勝寺空善が蓮如門徒には相違ありません。



『振津市史より』

担当 (茗荷)

考古雑談

第25回

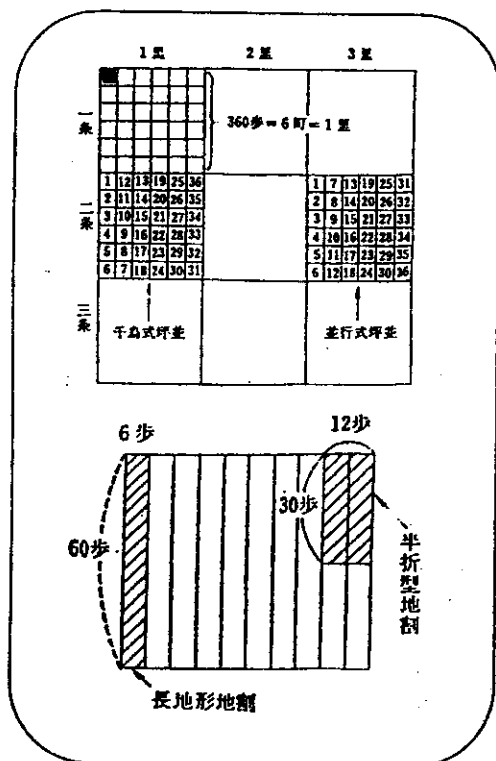
摂津市と水田の考古学

摂津市域の条里制(一)

条里制とは

条里制とは農地開拓のために行われた耕地の地割制度のことです。縦横六十歩の区画は一町(一町は約一〇九メートル)の方形区画をなし、東西と南北との方向に六町幅に区画されていました。北から南に一条・二条・三条となづけられ、西から東に一里・二里・三里となづけられました。六町区画はさらに三十六に分けられ、この一町方格は坪と呼ばれました。すなわち、一町方格内に三十六坪あることになります。坪の数えかたにも千鳥式と平行式に分けられます。坪のなかにも細分され長地型と半折型があります。

条里制は、古代史・地理学・考古学のそれぞれの分野から考察され、その究明が進んでいます。



条里坪付図・地割図

新版考古学講座6・有史文化(上)より

その分布も北は秋田県から南は鹿児島県までおよび、集落跡・国府跡・寺院跡などとも関連し重要な研究テーマと言えます。また、一ノ坪などの地名の研究・旧地図に見られる地割・畦畔・道路・溝などの現状との比較・検討も必要とされます。

しかし、現在地表面に表れている痕跡をもってすべて古代のものとするのは早急な場合があります。

長野県更埴市の条里制遺跡の場合には、発掘調査により地下に古くさかのぼる条里制跡があり、地表面のものはこれを踏襲して営まれた後世のものであることが明らかにになりました。

このような事例は、歴史学全般に言えることで、目に見える事象の一端から全体の歴史像を復元することには危険性があります。

歴史学も諸学問と同様に科学的精神に基づいた実証性が必要だと言えます。以上のことを踏まえた上で次号より、摂津市に展開している可能性のある条里制について考えていきたいと思います。

(つづく)

拓本

断面図



担当

(伊部)

金剛山出土の軒丸瓦・摂津市史より

【の】軒丸瓦・軒平瓦

○瓦の一種で丸瓦の中で軒の先端に用いられる瓦を軒丸瓦といいます。同様に平瓦の中で軒の先端に用いられるものを軒平瓦といいます。○いずれも表面に文様が施され時代特資料となり軒丸瓦は円が周縁と内れ内区にはく見られます。時代文様は八葉の素弁で中房は比較的小さく、中に数個の蓮子を含みます。○奈良時代になると文様も複雑になり、鎌倉時代には巴文なども見られるようになります。



からしめる考古学

蓮華文が多す。○飛鳥区に分けら形に垂直面定に重要なます。特に